

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実																																										
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）																																										
<table border="1"> <caption>Item 1: 一人一人の児童生徒の尊重</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>30%</td><td>50%</td><td>15%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>55%</td><td>35%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>40%</td><td>55%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	30%	50%	15%	5%	0%	生徒	55%	35%	10%	0%	0%	教職員	40%	55%	5%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 2: 道徳・心の教育の充実</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>35%</td><td>45%</td><td>15%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>45%</td><td>50%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	35%	45%	15%	5%	0%	教職員	45%	50%	5%	0%	0%
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																						
保護者	30%	50%	15%	5%	0%																																						
生徒	55%	35%	10%	0%	0%																																						
教職員	40%	55%	5%	0%	0%																																						
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																						
保護者	35%	45%	15%	5%	0%																																						
教職員	45%	50%	5%	0%	0%																																						
<p>考察 1 「一人一人の児童生徒の尊重」で、肯定回答は保護者は微減、児童は10%減少、職員は微増であった。今年度は「わからない」の回答項目をつけており、児童の「わからない」が11%で、肯定回答の減少とほぼ同じである。2 「道徳・心の教育の充実」では、保護者の肯定回答は前年度とほぼ同じ、職員は微増であった。特に1では、1割の児童に伝わっていないことがわかる。</p>																																											

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用																																																
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。																																																
<table border="1"> <caption>Item 3: 授業力向上</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>35%</td><td>45%</td><td>15%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>45%</td><td>45%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>30%</td><td>55%</td><td>15%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	35%	45%	15%	5%	0%	生徒	45%	45%	10%	0%	0%	教職員	30%	55%	15%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 4: タブレット端末活用</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>50%</td><td>35%</td><td>10%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>60%</td><td>35%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>65%</td><td>30%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	50%	35%	10%	5%	0%	生徒	60%	35%	5%	0%	0%	教職員	65%	30%	5%	0%	0%
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	35%	45%	15%	5%	0%																																												
生徒	45%	45%	10%	0%	0%																																												
教職員	30%	55%	15%	0%	0%																																												
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	50%	35%	10%	5%	0%																																												
生徒	60%	35%	5%	0%	0%																																												
教職員	65%	30%	5%	0%	0%																																												
<p>考察 3では、保護者の肯定回答は9%増で、わかる・楽しい授業づくりに関して児童や職員の感じ方に近づいた。児童はほぼ同じ、教職員は微増であり、この項目に関しては全体的に上向きである。教職員の向上意欲を感じている。4は、保護者が5%減だが、「わからない」が11%あった分の減少と考えられる。児童、教職員は前年度とほぼ同じで、教職員の内訳としては、そう思うが12%増加しており、授業の中での活用の工夫だけでなく、係活動や委員会活動等で児童が自ら活用するなど、ICTの活用が定着してきたと考える。</p>																																																	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成																																										
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。																																										
<table border="1"> <caption>Item 5: 学校の支援体制</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>25%</td><td>55%</td><td>15%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>45%</td><td>45%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	25%	55%	15%	5%	0%	教職員	45%	45%	10%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 6: 共生社会を担う人材の育成</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>25%</td><td>45%</td><td>20%</td><td>10%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>55%</td><td>35%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>35%</td><td>55%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	25%	45%	20%	10%	0%	生徒	55%	35%	10%	0%	0%	教職員	35%	55%	10%	0%	0%
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																						
保護者	25%	55%	15%	5%	0%																																						
教職員	45%	45%	10%	0%	0%																																						
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																						
保護者	25%	45%	20%	10%	0%																																						
生徒	55%	35%	10%	0%	0%																																						
教職員	35%	55%	10%	0%	0%																																						
<p>考察 ③は保護者の肯定が最も低かった項目である。5では、保護者肯定回答が16%減少、6では、23%減少している。5は「わからない」が16%、6は24%をかなりの割合を占めている。教職員の個々の対応に個人差があることや、他の項目と比べて保護者にはあまり伝わっていないことから、特別支援学級による交流学习に関する全体への発信が不足しているものと考えられる。</p>																																											

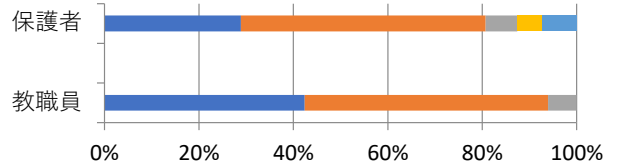
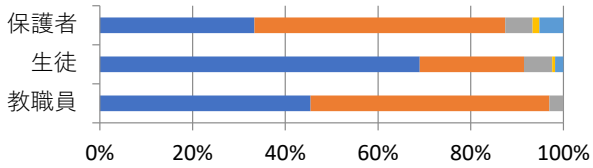
④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止

8 家庭や地域との連携協力

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



考察 7の保護者の肯定回答は5%減、児童は4%減、教職員は同じで、「わからない」の分の減少だと考えると、昨年とほぼ変わっておらず、「そう思わない」は減少している。8での保護者の肯定回答はほぼ同じだが、否定回答は昨年度より6割ほど減少している。コロナ禍でできなかった行事等を再開し、保護者と顔を合わせる機会も増えてきたことや、地域との交流の様子を発信することで、昨年までより連携・協力の実感があるのだと考える。

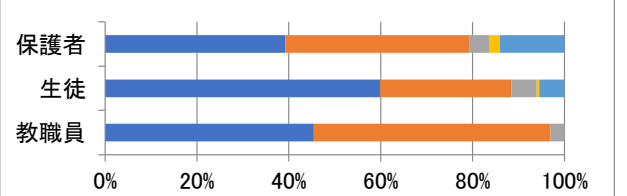
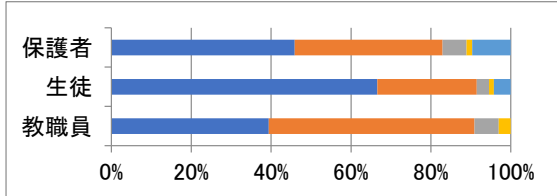
⑤学校独自の取組として

9 学校独自1

10 学校独自2

先生方は、あいさつの指導に力を入れていると思いますか。

先生方は、互いに認め合う「いいね」があふれるような取り組みに力を入れていると思いますか。

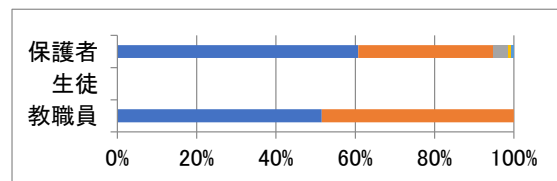


考察 9は保護者の肯定回答が10%減であった。この減少は「わからない」の10%の分だと考えられる。教職員が3%減で、保護者と教職員の肯定回答が減ったのに対し、児童は5%増であった。10に関しては保護者の肯定回答12%減、「わからない」14%、児童の肯定回答は4%増、職員はほぼ同じであった。「あいさつ」「いいね」二つの学校の取組に対し、児童はより肯定的にとらえるようになったことがわかる。

⑤学校独自の取組として

11 学校独自3

先生方は、安心メール、学校便り、学級便りなどで情報提供に努めていると思いますか。



考察 11では、学校側からの安心メールや学校便り、学級便りなどの情報提供に対し、保護者も教職員も肯定回答の割合が非常に高い。しかし、昨年度と比較してみると、保護者の肯定回答は3%減少、職員は2%増加であった。本校の情報はおおむね伝わっているが、情報量が多いだけに、より伝わりやすい情報発信の工夫をしていく必要がある。また、学級懇談会も子どもたちの様子を担任から直接伝える場であるが、実際のところ参加者が少ない。

来年度の具体的な取組について

○1に関しては、「自分が大切な存在なんだ」と実感できる取組を行っていく。教職員が児童の話に耳を傾ける、対応するだけでなく、定期的に児童同士が対話をする時間を設定し、互いを知る互いを受け入れる機会を設ける。これを軸に2や9に結び付けていく。

○確かな学力をはぐくむために、熊本市学力調査の結果を分析し、本校の児童の実態に合った取組を行う。今年度受けた授業づくり支援訪問で得た学びや、児童が主体的に学ぶことができる効果的なICTの活用、既習事項の定着を図る方法を校内で情報共有し、校内研修等を通して教職員の授業力向上を図る。

○③に関しては保護者にあまり伝わっていない。11の学校の情報提供に関しては保護者も実感している。学校の支援体制や交流・共同学習については、特別支援学級による全体への発信を加え、これまで以上に積極的に発信していく。

○今年度は9月以降、運動場改修工事のため運動場が使えず、体を動かす場所や機会が制限され、校舎内を走る児童やけがをする児童が増加した。縦割り班活動の安全に遊ぶためのルールを考えたり、委員会活動等での気づきなどから子どもたち自身に安全について考えさせような安全教育を進める。

○今年度は保護者や地域の方に参加してもらおう行事が復活し、交流する機会が増えた。ただ、保護者の授業参観への参加は多いが、学級懇談会への参加は低い。保護者が参加したいと思える懇談会への工夫を行う。

○学校独自の取組である「あいさつ」の指導と「いいね」の取組については、子どもたちが昨年以上にこの取組を実感している。「あいさつ日本一」の合言葉のもと、次年度は学年や発達段階に応じてより具体的なめあてをもった取組とする。

学校関係者評価

○9のは、保護者の肯定回答が10%減。めざせ「あいさつ日本一」を掲げるなら、これは要改善。あいさつの定着は一時的な取り組みやキャンペーンでは改善が難しく、長期的な見通しや組織全体の共通理解・意識向上が重要。児童は5%増だが、まだまだと感じる。教職員自身のあいさつから見直す必要がある。質問の文言を変えてイメージしやすくする必要もある。

○11は保護者も教職員も肯定回答が非常に高い。しかし、昨年度と比較してみると、情報発信頻度は多いと思うが、安心メールでは横長表示ができず読みにくい。スマホで読むことを前提とした情報量やサイズにする。また、学級懇談会の参加者が少ないのは大きな問題で、対策を講じる必要がある。

○③の6において、交流学級に関する全体への発信が不足しているとある。通常学級からも発信できることもあるので、特別支援学級だけに頼らないようにしたい。